ナンスを継承し、持続可能な成長を図るべきだ、という。彼のこうした提言は日本の労協運動にとっても意味をもつにちがいない。

最後に世界会議とは直接関係がないが、オスロで深く心に留まった光景についてふれておく。それは真っ昼間からオスロ駅前の公園でたむろし、麻薬の注射をさしている青年たちの姿だ。２人や３人ではない。7人か８人、いやそれ以上だったかもしれない。アメリカやカナダでも、白昼堂々と青年が麻薬の注射をしている状況に私は出くわしたことがない。面食らって眼をそらそうとしたが、彼らは一向に気にする風でもない。明るい光とは裏腹に、青年を取り巻く状況の厳しさが突き刺さってくるような瞬間だった。

ICA総会でバルベリーニICA会長もILOソマビア事務局長も失業、貧困、その中での仕事おこしへの協同組合の役割を強調していた。その演説の内容がごく自然にうなずける情景である。今年欧州は熱夏で1万人もの高齢者が亡くなったという。そして、フランスでの年金改革反対のストライキ。若者も高齢者も決して安堵していられない時代である。社会改革の担い手としての協同組合を、というゴーティエ氏の結論が胸にしみた北欧の旅だった。

CICOPA世界会議報告

フランシス・イアニエッロ（欧州委員会）
訳　神田順子・玄幡真美

はじめにー欧州委員会の立場からー

本日はお招き下さり、まことに有り難うございます。私にとって、皆さんのように見識ある方々と意見を交換することは大きな意味があります。

話を進めるに当たり、強調したい点が二つあります。先ず、これまでスピーチされた方たちは確信に満ちあふれていたのに対して、私は多くの疑問を抱いています。ですから疑問を晴らすためにも皆さんと論議を重ねたいのです。

第二に強調したいのは、私の立場です。私は無論協同組合の国際会議に出席した経験があり、皆さんの（協同組合運動への情熱）は存じています。しかし私は公務員であり、その立場上同じような情熱を抱くわけには行きません。公僕として皆さんのお役に立ち、皆さんが抱える問題を解決する道を共に探って行くのが私の務めであり、現在とそして将来の欧州連合加盟国の人々のために働いています。また、私は皆さんのように“第三の道”といった表現は使いません。そうではなく、“資本をベースにした一般企業と協同組合が共存できる新たな道”を探っているのです。私の話をお聞きになって“革命的でない”と思われるかも知れません。がこれは立場の違いですからご理解下さい。

私は欧州委員会で仕事をしていますが、その中には各国の省庁に当たる組織があり、その一つの企業局にはフランスで言うところの“エコノミー・ソシアル（＝ソーシャル・エコノミー）”を担当する部署があります。ソーシャル・エコノミーの担い手は協同組合、共済組合、市民団体等であり、企業局と協同組合組織は長年協力関係にあります。

EUで関心を呼んでいる協同組合の役割

協同組合は現在、重要な時期を迎えています。というのは、欧州の様々な組織や機関が協同組合に注目しているのです。例えば、欧州議会では、様々な組織を横断する形でこの問題に取り組むグループが結成されています。EUのプロディ委員長がソーシャル・エコノミー委員会の会合に出席し、（私の記憶が正しければ）リッカネン委員が昨年リスボンで開催されたICA欧州支部の大会に出席したこと等でわかるように、EUの政治責任者レベルでも関心が高まっています。

さて、問題は協同組合を発展させようという意志をどうしたら実際の行動に移せるのか、ということです。私にとって「皆さんは素晴らしい。皆さんこそが欧州の未来を担っています」と言うのはたやすいことですが、それだけでは何の役にも立ちません。私の役目は、皆さんを挑発し、催促し「EUがどのようなことをすれば皆さんのお役に立つのか」について具体的な提案を出して貰うことです。ですから敢えて皆さんを挑発したいと思います。

私どもと皆さん達はこれからも協力を続けなければなりません。「全ての関係機関、組織が絶えず対話を続けなければ成果はえられない」というのが公務員としての私の信念です。是非とも建設的で有意義な仕事をしたいので、私は持てる時間の全てをこの問題に充てています。そのためにも皆さんの協力は欠かせません。「第三の道」とか「橋を架ける」といった表現を耳にすると「おっしゃることは本当だが、それだけでは….」と思ってしまいます。協同組合を一般企業と同じレベルに引き上げるのにはどうしたらよいのか、について考えて頂きたいのです。

協同組合―外部へのアピールが必要

欧州委員会内外の人と“企業”について話している時に思い知らされるのは、人々にとって「企業」といえば「資本を元とした一般企業」のことであり、協同組合の事は頭にありません。委員会が指令や規定を作成するとき考慮に入れるのは一般企業の特性や諸条件であり、協同組合の特性や諸条件は考えられていません。

ところで、リスボン会議において「2010年までに欧州経済の力を世界トップに押し上げる」という決議が採択されました。プロディ委員長やリッカネン委員が主張するように、この目標を達成するためには欧州域内であらゆる形の起業を応援せねばなりません。そして、最も優れた起業形態の一つが協同組合なのです。そのため、私たちは現在、二つの方向で努力しています。

第一は、協同組合に必要な制度を整えることです。手始めに私達は協同組合関連法規を策定しました。この法規は7月に承認され、8月17日の官報で公表されました。これによって、例えばスペインとギリシャの協同組合が連携することも可能となったのです。国を超えた連携が可能になったばかりでなく、来年の5月1日からEUに加わる新加盟国の国内法整備を促進する効果があり

ます。ルーマニアはその良い例であり欧州協同組合法規をモデルとして国内法を改定しました。従って、この法規はEU域内における協同組合の役割を強める事になります。

第二の方向ですが、これはサラマンカ会議での結論に基づいています(重要な会議だったとはいえ、マンチェスター会議ばかりが話題になるのが解せません)。私達にとってサラマンカ会議は重要な意味を持っています。というのも、この会議で初めて「協同組合の枠を超えねばならない」という声が出たからです。協同組合と私たちが仲間内で協同組合の素晴らしさを語っていても役には立ちません。仲間内の枠を超えて、欧州の人々に広く語りかけねばなりません。そのために現在取り組んでいるのは、欧州各国の優秀な協同組合に与えられている認定証や奨励賞にはどのようなものがあるのか?

認定基準や選定基準はといったことを調査し、一覧を作ることです。皆さんの協力もえてこれを早く作り上げたいと思います。その目的は、仲間内の枠から出て、外部の人々に協同組合の重要性を認識して貰うことです。EUに新加入する10カ国と話し合う機会が12月に設けられます。これを機に欧州統一基準で優秀な協同組合を認定する制度を整備したい、これが当面の目標です。そのためにも皆さんの協力をお願い致します。仲間内で協同組合の重要性を話し続けるのでなく、外に飛び出して存在をアピールせねばなりません。

起業における協同組合の役割

欧州委員会では出来るだけ早く協同組合に関する通達を出すべく準備が進んでいます。通達は指令や法規と並び欧州委員会の権限であり、加盟各国政府と欧州議会に届けられます。皆さんもご存じのようにこの通達の準備には長い年月が費やされています。ボローニャ会議が端緒で、多くの人々が通達作りに関わっていました。通達作りの責任者となったとき、私はこれでは事が進まないと判断し、小さな作業グループを作りました。昨年、案がまとまりこれをインターネットで公開して反応を探りました。最終案は現在、採択のための最後段階に入っているはずです。9月には欧州委員会通達として発表されることと思います。この通達は最終結論ではなく、行動計画を練るためのたたき台、出発点です。そして、その行動計画はEUが力を入れているもう一つの行動計画、すなわち起業に関するグリーンペーパー(livres verts d'fentreprenariat)に基づく行動計画と結びつくものであります。“起業”と言えば、協同組合の起業も視野に入れねばなりません。起業に関する協同組合の役割は重要です。今日の経済における協同組合の比重が無視できぬからだけではなく、協同組合は多くの起業家を生み出すからです。欧州経済で不足しているのは起業家である以上、グリーンペーパーに基づく行動計画は協同組合を重視せざるを得ません。

欧州経済の未来の担い手としての協同組合

以上、これからの方向を考えるためのヒントを幾つか提唱いたしましたが、「皆さんが定めた目標を達成するためにも、私たちと皆さんとの協力を継続させる必要がある」というのが私の信念です。皆さんの協同組合を過去の遺産、と捉えるのは誤りだと思います。“連帯”という歴史のある、しかし決して古びることのない信条に支えられた協同組合は、欧州経済の未来の担い手なのです。